

降臨節第3主日 マタイ11章2―11節

〔直訳〕

- 2 さて ヨハネは 聞いて 牢屋の中で キリストの業を送って 彼の弟子たちを通して、
- 3 彼は言った 彼に、  
「あなたはあるのか 来るべき方で、  
あるいは 他の方を わたしたちは待つのか。」
- 4 そして 答えて イエスは 言った 彼らに、  
「行って 知らせなさい ヨハネに  
ところのことを あなたがたが聞いている。そして あなたがたが見ている。
- 5 目の見えない者たちは 再び見ている、  
そして 足の不自由な者たちは 歩いている、  
重い皮膚病の人たちは 清められている、  
そして 耳の聞こえない者たちは 聞いている、  
そして 死者たちは 起こされている、  
そして 貧しい人たちは 福音を告げ知らされている。
- 6 そして 幸い である ところの者は誰でも つまずかない 私に。
- 7 さて この者たちが 行った後に、  
始めた イエスは 言うことを 群衆に ヨハネについて、  
「何を あなたがたは出て行ったのか 荒野に 見物するために  
葦か 風によって 揺らされている
- 8 そうでないのなら、何を あなたがたは出て行ったのか 見るために  
人か 柔らかいものを まとっている  
見よ、 柔らかいものを 身に着けている者たちは 王たちの家の中に いる。
- 9 そうでないのなら、何を あなたがたは出て行ったのか 見るために  
預言者か  
そうた、私は言う あなたがたに、  
そして より偉大な者を 預言者より。
- 10 この者は ある 彼について書き記されているところの者で、  
『見よ、私は 遣わす 私の使いを あなたの顔の前に、  
その彼は 整えるであろう あなたの道を あなたの前に。』
- 11 まことに 私は言う あなたがたに、  
起こされなかった 女たちから生まれた者の中で より大きい者は 洗礼者ヨハネより。  
だが より小さい者は 天の国で より大きく 彼より ある。」

「新共同訳」

2 ヨハネは牢の中で、キリストのなきつたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、3 尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」4 イエスは答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。5 目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。6 わたしにまずかない人は幸いである。」7 ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。8 では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。9 では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言うておく。預言者以上の者である。」

10 『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの前に道を準備させよう』

と書いてあるのは、この人のことだ。11 はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。

① 聞いていること、見ていることを知らせなさい

Ⓐ 「牢屋」

当時の牢は、以前は水ためであった穴を代用したり（エレ三八6）、屋敷の地下に設けられた小部屋であった。この劣悪な環境に閉じ込められた囚人の手足や首には、かせがはめられ（使一六24・26）、食事も水とわずかなパンだけであった。牢屋は「救いのない状態」を表すので、イザヤ42章7節に「捕らわれ人をその枷から、闇に住む人をその牢獄から救い出す」とあるように、メシア（救い主）は囚人を牢屋から解放する人物として描かれてゆく。洗礼者ヨハネは、領主ヘロデの結婚が律法に適っていないことを指摘したために、牢屋に投げ込まれていた（マタイ14章参照）。

Ⓑ 「来るべき方」

旧約聖書の時代から待望されていたメシアのこと。メシアは「油注がれた者」の意味であり、ギリシア語に訳せば、「キリスト」となる。ヨハネはイエスが洗礼を望んだとき、「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」（三14）と言っている。ヨハネはイエスがメシアであることを知っていたはずである。その彼がここで弟子を送り、「ほかの方を待たなければなりませんか」と尋ねさせている。なぜ、イエスがメシアであるかどうかを弟子たちに尋ねさせたか。自分から離れようとする弟子にイエスの素晴らしさを实地に体験させるためだと考えられなくもないが、イエスの行動がヨハネの描くメシア観に合致しないように思われ、メシアであるかどうかを確認する必要を感じたからだと思われる。権力者にさえ悔い改めを迫る正義の人ヨハネが抱くメシア観とは、「よい実を結ばない木」をことごとく切り倒す裁き手である（三10）。しかし、イエスの活動の中心は病人や罪人に愛を示すことであった。

ⓒ 「目の見えない者たちは再び見ている…」

5節はイザヤ書からの引用（三五5―6、四二18、六一1）。イエスは旧約の期待に沿って行

動しているが、悪の裁きに目が向かうヨハネには、イエスの行動の意味が理解できない。

④「死者」

重い皮膚病にかかれば共同体から隔離され、社会的・宗教的に抹殺されるという「死」の状態に置かれた。目や耳や足の不自由な者も、神の裁きの結果だとされ、社会からの疎外という「死」を味わった。しかし、神の慈しみはイエスを通して彼らに注がれ、彼らを生きるべき命へと戻す。

⑤「聞いて…あなたがたが聞いている」

2—6節には「聞く」が三度も使われており、この段落のキーワードである。ヨハネは獄中でキリストの業を「聞いて」、イエスがメシアなのかと弟子に尋ねさせたのに対して、イエスは「あなたがたが聞いていることをヨハネに知らせよ」と答える。こうして、二つの「聞く」が対比されている。

①今起こっている出来事に神の言葉を聞く

イエスはヨハネの弟子たちに「行って、聞いていること、見ていることをヨハネに知らせなさい」と答え、イザヤ書を引用して、今起こっていることを教える。今は、目の見えない人が見、耳の聞こえない人が「聞く」時である。ヨハネは獄中で「キリストのなさったこと」を聞いた。ヨハネは確かに「キリストの業」を耳にしたが、それを実現させている神の言葉を聞くことはできなかったのである。宇宙万物の創造のとき、神が「光あれ」と言うと、その言葉はただちに実現した。神の言葉は必ず出来事として結実する（イザ五五8—11）。「目の見えない者たちが再び見ている」という出来事には、言葉によってそれを実現させることができる方の「見えるようになる」という声が響いている。

⑧イエスが行う奇跡

イエスの奇跡はイエス自身の偉大さを示すものではなく、神の声が響き渡り、新しい世界が現前していることのしるしである。ヨハネの弟子たちが聞いて、ヨハネに伝えるべき言葉は、神の、この創造の力ある言葉である。「預言者よりも大きい者」だと賞賛されるヨハネでさえ、イエスにつまづく可能性がある。それはメシアを人間の思考の範囲内にとどめるときである。メシアを人間の思いの枠にはめ込むべきではない。必要なのは、到来したメシアに人間の思いをあわせることである。イエスにつまづかない人の「幸い」は、彼に「聞く」ことから始まると言える。

②神の国が持つ力

①「葦」

洗礼者ヨハネが活動したヨルダン川には葦が生えていたが、葦は「動揺しやすくなびきやすい者」の象徴としても使われる。ヨハネは権力者に真正面から悔い改めを迫る人であるから、「葦」のような人物ではない。

②「柔らかいもの」

柔らかく、すべすべした衣服を指し、ヨハネが着ていた「らくだの毛衣」（三4）とは対照的に高価な着物のこと。

③「何を見る（見物する）ために、あなたがたは出て行ったのか」

ヨハネの弟子が去った後、イエスは群衆にヨハネについて語る。「何を見に行ったのか」という問いかけが三回も繰り返されるが、これは最後の答えである「預言者」を強調するための表現で

ある。

④「天の国で最も小さい者は、彼よりも大きい」

ヨハネは旧約の時代から期待されていた預言者であり、しかも「預言者よりも大きい者」である。イエスはヨハネのことを、メシアの先駆けとして旧約聖書が約束していた人物であり、人間の中でもっとも偉大な人物であると賞賛する。しかし、11節を見ると、イエスがヨハネを誉めるのは、それに対比される「天の国で最も小さい者は、彼よりも大きい」という言葉に目を向けさせるためであることが分かる。

⑤出来事のうちに「天の国」が現実となっている

マタイは「神の国」という表現を避け、「天の国」を用いる。この語は神の支配を表すが、支配が及ぶ一定の領域を表すことも、「神が王として支配する」という活動をも表す。従って、5節に記された「目の見えない者たちは再び見ている、…」といった出来事のうちに天の国が現実となっている。確かに洗礼者ヨハネは預言者としては最大の人物であったが、イエスに出会い、イエスを通して注がれる神の慈しみを受けて神の支配にあずかった者は、そのヨハネを超える者となる。それほどに天の国の力は圧倒的であり、人をまったく新しく造り変えてゆく。

### ③イザヤ35章1―10節

1 荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ

砂漠よ、喜び、花を咲かせよ

野ばらの花を一面に咲かせよ。

2 花を咲かせ

大いに喜んで、声をあげよ。

砂漠はレバノンの栄光を与えられ

カルメルとシヤロンの輝きに飾られる。

人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る。

3 弱った手に力を込め

よろめく膝を強くせよ。

4 心おののく人々に言え。

「雄々しくあれ、恐れるな。

見よ、あなたたちの神を。

敵を打ち、悪に報いる神が来られる。

神は来て、あなたたちを救われる。」

5 そのとき、見えない人の目が開き

聞こえない人の耳が開く。

6 そのとき、歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。

口の利けなかった人が喜び歌う。

荒れ野に水が湧きいで

荒れ地に川が流れる。

7 熱した砂地は湖となり

乾いた地は水の湧くところとなる。

山犬がうずくまるところは

葦やパピルスの茂るところとなる。

8 そこに大路が敷かれる。

その道は聖なる道と呼ばれ

汚れた者がその道を通ることはない。

主御自身がその民に先立って歩まれ

愚か者がそこに迷い入ることはない。

9 そこに、獅子はおらず

獣が上つて来て襲いかかることもない。

解き放たれた人々がそこを進み

10 主に贖われた人々は帰って来る。

とこしえの喜びを先頭に立てて

喜び歌いつつシオンに帰り着く。

喜びと楽しみが彼らを迎え

嘆きと悲しみは逃げ去る。

① イザヤ 35章は救いへの期待を歌う美しい箇所であるが、前 8 世紀の預言者イザヤの言葉ではなく、前 6 世紀から前 5 世紀へと移行する頃に、無名の預言者によって語られたとされる。

② 「弱った手…よろめく膝」

イザヤ 35 章が語られた時代状況をほのめかす言葉。この時代の人々は、バビロン捕囚からは解放され（前五三八年）、神殿も再建されたが（前五一五年）、第二イザヤやハガイが約束していた栄光はいっこうに見えないばかりか、慢性的な水不足による収穫の不安定さは収まらず、ペルシヤによる支配も磐石と見える状況を生きていた。手は弱り、膝はよろめく、落胆の時代。

③ 「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を」

1—2 a 節に「荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ。…野ばらの花を一面に咲かせよ。…砂漠はレバノンの栄光を与えられ、カルメルとシヤロンの輝きに飾られる」とあるように、神は荒れ野と荒れ地と砂漠をレバノンやカルメルやシヤロンに変貌させる方である。イスラエルの大地のほとんどは赤茶けた荒れ野であり、荒れ地であり、砂漠であるが、地中海に沿った南北に細長い地帯は緑に恵まれた地域である。北のレバノンは森林で有名であり、カルメルも木に覆われた山地であり、その南に広がるシヤロンは草花の咲き乱れる平野。荒地がこれらの地と同じ「輝きに飾られる」日が来る。

④ 「人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る」

2 b 節に「人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る」とあるが、ここに用いられた「栄光」と「輝き」は 2 a 節の「レバノンの栄光…シヤロンの輝き」にも使われており、同じ言葉を用いることよって、不毛の地に現れる栄光と輝きが神からのものであることを示している。

⑤ 「敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる」

イザ 40 章 9—11 節とは違って、敵に報復する神の到来。強力な支配のもとに置かれて心おの

く人々にとって、事態の根底からの転換がなければ、希望も持つことができない。それほど落胆している。ペルシャによる強力な支配下に生き、農業生産においても、未来への展望においても、あらゆる面で閉じられた状況に生きる者は、その視野を自分たちの興味に限定してしまい、他の人々にまで広げられない。

⑥「そのとき、見えない人の目が開き…」

荒地を緑の野に変貌させる神は、人間のあり方をも変更させる。目や耳が開かれるので、「人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る」ことができる(2節)。ここでの視力や聴力の回復は、肉体的な回復だけでなく、精神的な回復をも含むかもしれない。そうであれば、目が開かれ、耳が開かれることによって、出来事の意味を知ることができ、出来事にこめられた神の言葉を聞くことができる。

⑧「主に贖われた人々は帰って来る」

バビロン捕囚からの解放後も、残る人がいた。帰還後の生活に不安があったから。しかし、彼らも戻って、新たな共同体が作られる。

⑨「贖う(パーダー)」

(1)この語は、もともとは商業用語であり、「代価を支払って、あるものの所有権が移行する」ことを表す。主人が女奴隷を自分のものと定めながら、気に入らなくなったら、彼女は「買戻される」ことが許される(出二一8)。

(2)しかし、出エジプトの出来事と結びつくことによって、宗教的な意味合いをもつことになる。エジプトからの脱出は、神がエジプト人の初子や彼らの家畜の初子をとことく撃つことによって行われたので、イスラエルも人と家畜の初子を神にささげるが、「贖う」ことによって、自分のものとすることができる(出一三15、民一八15—17)。

(3)さらに進んで、神によるエジプトからの解放がこの語で表される。神は民への愛のゆえに、奴隷の家から「救い出された」(申七8、九26、一五15など)。また、この用法はウルから呼び出されたアブラハムにも(イザ二九22)、捕囚からの解放にも(エレ三一11)、さらに一般的に命の危険や敵による圧迫からの救出にも使われる(サム下四9、詩二五22、四九16、エレ一五21、詩一一九134)。

#### ④人の思いを超える神の力に身をゆだねる

①預言者は、閉塞感に苦しむ人々の中であって、「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を」と呼びかけ、「人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る」と宣言することができる。彼は現実を見ない夢想家ではなく、神が人に大きな変化をもたらすことを信じる信仰の人である。

②「天の国」は人を根本的に造り変える力を持っている。「目の見えない者たちは再び見ている」という出来事が現実となる場が「天の国」である。メシアであるイエスに出会い、イエスを通して注がれる神の慈しみを受けてその支配に身をゆだねる人は、最も偉大な預言者ヨハネを超える者となる。天の国は、神の言葉がイエスを通して実現する新しい創造である。イエスの奇跡に響いている神の言葉に耳を傾けることなく、自分たちの期待をメシアに押しつけようとするなら、イエスの真実をつかむことはできない。しかし、その言葉を聞いて「天の国」を受け入れるなら、そこに「幸い」が生まれる。